**パラグアイ内政・外交（２０１４年１０月）**

**概要**

**（１）内政**

●１日，カルテス大統領は，フランシスコ・ナップス住宅・居住環境庁長官を更迭し，ソレダ・ヌニェス女史を新たに長官に任命した。

●１５日，コロラド党常任幹事会は，臨時党大会を１１月２２日に開催することを決定した。

●１６日，カニンデジュ県において，abc紙の地方記者パブロ・メディーナ氏及びそのアシスタントであるアントニア・アルマーダ女史が殺害される事件が発生した。

●２２日，政府はEPPにより誘拐されているアルラン・フィック少年及びエデリオ・モリニゴ国家警察庁巡査の生存の証拠となるビデオを公表した。

●２４日，下院において，本年８月末に上院において可決されていた非拘束名簿式比例代表制廃止に係る法案の審議が行われ，賛成多数で同法が可決・成立した。

**（２）外交**

●２日，アニファ・アマン・マレーシア外相が当国を公式訪問し，カルテス大統領表敬，ロイサガ外相との会談等を行った。なお，マレーシアの外相が当国を訪問したのは今回が初めてである。

●７～１０日，カルテス大統領は，台湾を公式訪問し，馬英九台湾総統との会談等を実施した。

●２１日，第６９回国連総会本会合において人権理事会理事国選挙が行われ，パラグアイが理事国入りを果たした。

●３１日，ロイサガ外相は，太平洋同盟及びメルコスールの閣僚級会合に先立ち，オルギン・コロンビア外相との会談を行った。

**１　内政**

**（１）住宅・居住環境庁長官の交代**

●１日，カルテス大統領は，大統領令第２３１６号をもって，フランシスコ・ナップス住宅・居住環境庁長官を更迭し，ソレダ・ヌニェス女史を新たに長官に任命した。ナップス長官に対しては，民生住宅建設計画の大幅な遅れを理由に批判が挙がっていた。ヌニェス新長官は，社会事業を行うNGOにおいて活躍した実績が認められ，就任に至った。

●２日，与党コロラド党からは，カルテス大統領がコロラド党の政治家ではないヌニェス女史を新長官に任命したことに対し，批判の声が挙がった。

**（２）議会議員による汚職**

●１３日，自身の自宅の管理人３名が，勤務実体がないにも拘わらず下院職員として給与を不正に受給していた問題の責任を問われていたイバニェス下院議員（コロラド党）は，裁判所及び検察庁に対して，不正受給を認めるとともに，弁済を約束し，訴追手続きの停止を求めた。

●１５日，検察は，イバニェス議員の訴追手続きの停止の申し立てを却下した。

**（３）非拘束名簿式比例代表制廃止に係る法案**

●２４日，下院において，本年８月末に上院において可決されていた非拘束名簿式比例代表制廃止に係る法案の審議が行われ，賛成多数で可決・成立した。パラグアイでは従来，拘束名簿式（サバナ・リスト）が用いられてきたが，２０１２年２月，政府が拘束名簿式比例代表制の廃止を内容とする法律を公布した。しかし，同年７月，非拘束名簿式の導入を２０１５年以降とする旨の法案が可決・成立していた。

**（４）与党コロラド党の動き**

●１５日，コロラド党常任幹事会は，臨時党大会を１１月２２日に開催することを決定した。なお，同党大会においては，２０１６年に予定されている党首選挙と２０１５年全国市長選挙に向けた党内選挙を２０１５年に同時に実施すること等につき協議が行われる予定。

**（５）abc紙記者殺害事件**

●１６日，カニンデジュ県において，abc紙の地方記者パブロ・メディーナ氏及びそのアシスタントであるアントニア・アルマーダ女史が殺害される事件が発生した。同事件を主導したのは，同県ウペフ市の市長であるビルマル・アコスタ氏（与党コロラド党）と見られ，同市長は，自身が行っている麻薬取引について，メディーナ記者に告発されることを恐れ，殺し屋を雇い殺害した上で，ブラジルに逃走したと見られる。なお，情報筋によれば，メディーナ記者は長年に亘り，組織犯罪を取材してきたことから，恒常的に脅迫を受けていた。

●同日，本件に関し，カルテス大統領はデ・バルガス内務相と数時間に亘り協議を行った。その後，同大統領は，大統領府のホームページを通じ，同殺害事件を厳しく非難するとともに，組織犯罪対策へのコミットメントを改めて表明した。

●２１日，カニンデジュ県選出のクリスティーナ・ビジャルバ下院議員（コロラド党）は，記者会見を開き，アコスタ市長の逃走に荷担したとの疑いを否定した。

●２２日，カルテス大統領は，グアイラ県で行った演説において，abc紙記者殺害事件を発端とし，複数の国会議員が麻薬取引に荷担しているとの報道がなされていることに関し，政府及び与党コロラド党は政治と麻薬取引のつながりを許容しない旨述べた。

**（６）EPP（パラグアイ人民軍）による誘拐事件**

●２２日，政府はEPPにより誘拐されているアルラン・フィック少年及びエデリオ・モリニゴ国家警察庁巡査の生存の証拠となるビデオを公表した。同ビデオは１８日に撮影されたものであり，アルラン少年とモリニゴ巡査が家族に対するメッセージを読み上げている。

**２　外交**

**（１）カルテス大統領の台湾訪問**

●７～１０日，カルテス大統領は，台湾を公式訪問し，馬英九台湾総統との会談等を実施した。なお今次訪問には，ロイサガ外相に加え，ソフィア・カルテス大統領令嬢，サラ・カルテス大統領妹君，ロペス・モレイラ大統領府官房長官，ガッティーニ農牧相，バリオス厚生相，レイテ商工相，オヘダ大統領私設秘書官，フィラルティガ大統領法律顧問等が同行した。

＜歓迎式典＞

●８日，カルテス大統領は，中正紀念堂自由広場において行われた歓迎式典に参加した。同式典において，馬総統はカルテス政権の内政・外交両面での取組を高く評価する旨述べた。これに対し，カルテス大統領は，台湾政府による４，５００棟の民生住宅建設に言及しつつ，台湾からの援助について，高い透明性，誠実さをもって実施していく旨述べた。

＜馬総統との会談＞

●その後，両国首脳は総統府に移動し，二国間アジェンダや通商関係につき，１時間以上に亘る会談を行った。同会談後，カルテス大統領は，記者団に対し，台湾政府が民生住宅以外にも，保健，教育等の分野でパラグアイを援助しており，その友情の数々をパラグアイは決して忘れない旨述べた。更に，パラグアイ人ほど，台湾に愛情・愛着を感じている国民は地球上に存在しない旨強調した。これに対し，馬総統は，パラグアイの外資誘致政策を評価するとともに，カルテス大統領就任以降，パラグアイが国際社会に完全に復帰し，外交面でのプレセンスを増している旨述べた。なお，同会談後に署名された両国共同声明の主なポイントは以下のとおり。

＜両国共同声明＞

（前文）

●馬総統は，会談において，「主権は分割できないが，資源は共有できる」との原則に基づき発表した「東シナ海平和イニシアチブ」を詳しく説明し，関係各方面が衝突を避けるため協議を行うよう求め，これに対しカルテス大統領は同イニシアチブを評価した。

（本文）

●カルテス大統領は，パラグアイが大西洋と太平洋の重要なリンクになり得る旨表明し，馬総統は，パラグアイの内陸開発途上国としての条件を考慮し，パラグアイ政府を　　支援する旨表明。

●カルテス大統領は，台湾政府による民生住宅建設プロジェクトを通じた支援に対し感謝を表明。

●両国首脳は，両国間貿易及び投資促進の重要性を強調。

●両国首脳は，２０１５年に政策協議を再開することで一致。

●馬総統は，国際場裡におけるパラグアイの支持に感謝を述べ，カルテス大統領は，国　　連憲章の普遍性の原則に則り,台湾の国連を始めとする国際機関への参加に向けた取組　　を支持。

**（２）ロイサガ外相のコロンビア訪問**

●３１日，ロイサガ外相は，太平洋同盟及びメルコスールの閣僚級会合に先立ち，オルギン・コロンビア外相との会談を行い，二国間アジェンダにつき協議を行った。同会談後，両外相は，人身取引の予防・調査及び被害者保護に関する覚書，領事分野における協力に関する覚書に署名した。また，両外相は，本年３月２４日の両国外相会談以降，同会談で開催につき合意した各種政策協議等が着実に実施されていることを高く評価した。

**（３）アマン・マレーシア外相の当国訪問**

●２日，アニファ・アマン・マレーシア外相が当国を公式訪問し，カルテス大統領表敬，ロイサガ外相との会談等を行った。なお，マレーシアの外相が当国を訪問したのは今回が初めてである。

＜カルテス大統領表敬＞

●同日午前，当地を訪問したアマン・マレーシア外相は，大統領府においてカルテス大統領を表敬した。同表敬にはロイサガ外相が同席した。アマン外相は表敬後，国立英雄廟における献花式典に参加した。

＜ロイサガ外相との会談＞

●同日午後，ロイサガ外相は，アマン・マレーシア外相との会談を行った。外相会談後，双方の担当者を含めた拡大会合が行われ，二国間関係及び国際場裡における協力につき，幅広く協議が行われた。拡大会合後に両国外相間共同声明の発出及び共同記者発表が行われた。

＜共同記者発表＞

●ロイサガ外相は，カルテス大統領に対するマレーシア公式訪問にかかる招待が伝達された旨述べるとともに，今後，経済，政治，学術分野など広範なテーマを扱う両国外務省間協議メカニズムを構築することで一致した旨述べた。これに対し，アマン外相は，今次訪問の目的の１つが，２０１４年国連安保理非常任理事国選挙に関する支持要請である旨述べるとともに，パラグアイがマレーシアをアジア大陸への輸出のためのゲートウェイとして利用しうる可能性がある旨述べた。

**（４）髙瀨中南米局長の当国訪問**

●９日，アファラ副大統領は髙瀨中南米局長の表敬を受けた。

●同日，ガウト外務副大臣（経済担当）は髙瀨中南米局長との会談を行い，両国間の経済・技術協力等について意見交換を行った。また，髙瀨局長は，同会談において，来年３月１４日から１８日に仙台において行われる第３回国連防災世界会議へのパラグアイの参加につき，日本政府の関心を表明した。髙瀨局長は，会談後記者団に対し，去る６月のカルテス大統領の訪日後，多くの日本人がパラグアイに関心を持つようになった旨述べた。

**（５）ルセーフ・ブラジル大統領再選に対するパラグアイ政府の反応**

●２７日午前，カルテス大統領は自身のツイッター上で，「ルセーフ大統領の再選について，同大統領を祝福するとともに，二期目の成功を祈る。」旨のコメントを行った。

●２７日，ロイサガ外相は，記者団からのルセーフ大統領の再選に関する質問に対し，パラグアイはブラジルとの関係強化を模索し，具体的な成果を上げることを期待する旨述べた。また，次期ルセーフ政権においては，ＦＯＣＥＭ（メルコスール構造格差是正基金）を通じたコスタネラ２（アスンシオン川流域北部開発計画）につき，ブラジルが同計画を承認することを期待する旨述べた。

**（６）パラグアイの国連人権理事会理事国入り**

●２１日，第６９回国連総会本会合において人権理事会理事国選挙が行われ，ラテンアメリカグループにおいて，パラグアイは １３９票を獲得し，エルサルバドル（１５１票）及びボリビア（１４４票）とともに，理事国入りを果たした。なお，任期は，２０１５年～２０１７年となっている。

**３　要人往来**

**（１）来訪**

●２日，アマン・マレーシア外相（カルテス大統領表敬等）

●２９日，張向晨・中国商務部部長助理（ガウト外務副大臣との会談等）

**（２）往訪**

●４日～１３日，ロハス蔵相，米国訪問（投資家との会合等）

●５日～１６日，カルテス大統領等，台湾訪問（馬総統との会談等）

●６日～９日，バイアルディ女性相，スイス訪問（移住関係ワークショップ参加）

●１２日～１４日，ソト国防相，ペルー訪問（米州国防相会議出席）

●１２日～２１日，ソサ労働相，ペルー訪問（ＩＬＯ米州会合出席）

●１４日～１８日，ラフエンテ教育文化相，コロンビア訪問（教育関係国際会議出席）

●３１日～１１月１日，ロイサガ外相，ｺﾛﾝﾋﾞｱ訪問（太平洋同盟とﾒﾙｺｽｰﾙとの会合出席）(了)